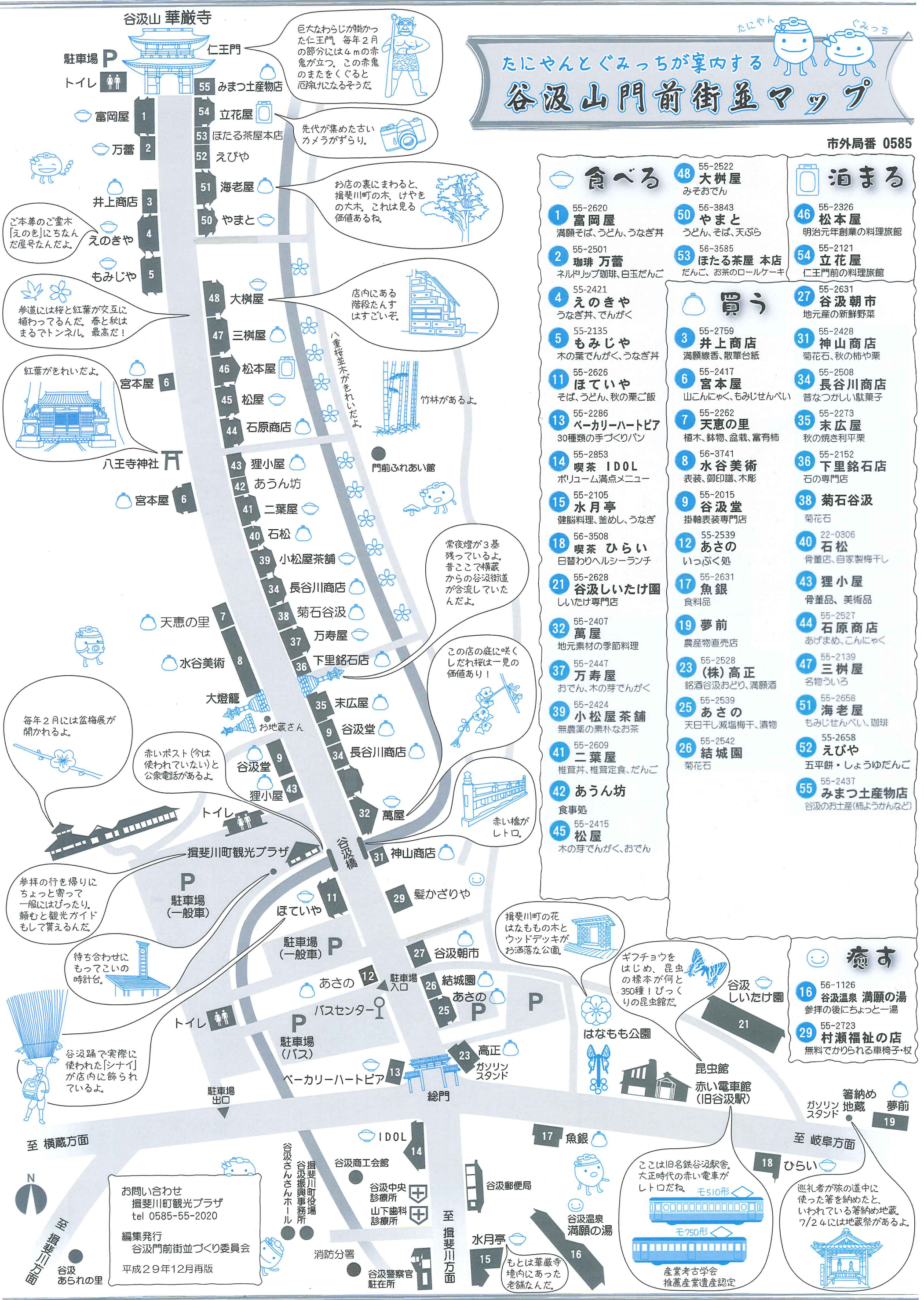


たにやんとぐみっちが案内する 谷汲山門前街並マップ

市外局番 0585

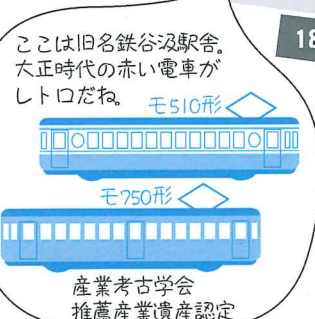


- | 食べる | | 泊まる | |
|---------------|---------------------------|-------------|----------------------------|
| 1 富岡屋 | 55-2620
満願そば、うどん、うなぎ丼 | 46 松本屋 | 55-2326
明治元年創業の料理旅館 |
| 2 珈琲 万蕾 | 55-2501
ネルドリップ珈琲、白玉だんご | 47 三樹屋 | 55-2121
仁王門前の料理旅館 |
| 4 えのきや | 55-2421
うなぎ丼、でんがく | 48 大樹屋 | 55-2631
地元産の新鮮野菜 |
| 5 もみじや | 55-2135
木の芽でんがく、うなぎ丼 | 50 やまと | 55-2428
菊花石、秋の柿や栗 |
| 11 ほていや | 55-2626
そば、うどん、秋の栗ご飯 | 53 ほたる茶屋 本店 | 55-2508
昔なつかしい駄菓子 |
| 13 ベーカリーハートピア | 55-2286
30種類の手づくりパン | 54 立花屋 | 55-2121
仁王門前の料理旅館 |
| 14 喫茶 IDOL | 55-2853
ボリューム満点メニュー | 27 谷汲朝市 | 55-2631
地元産の新鮮野菜 |
| 15 水月亭 | 55-2105
健脳料理、釜めし、うなぎ | 31 神山商店 | 55-2428
菊花石、秋の柿や栗 |
| 18 喫茶 ひらい | 56-3508
日替わりヘルシーランチ | 34 長谷川商店 | 55-2508
昔なつかしい駄菓子 |
| 21 谷汲しいたけ園 | 55-2628
しいたけ専門店 | 35 末広屋 | 55-2273
秋の焼き利平栗 |
| 32 萬屋 | 55-2407
地元素材の季節料理 | 36 下里銘石店 | 55-2152
石の専門店 |
| 37 万寿屋 | 55-2447
おでん、木の芽でんがく | 38 菊石谷汲 | 55-2273
秋の焼き利平栗 |
| 39 小松屋茶舗 | 55-2424
無農薬の素朴なお茶 | 40 石松 | 55-2152
石の専門店 |
| 41 二葉屋 | 55-2609
椎茸丼、椎茸定食、だんご | 43 狸小屋 | 55-2273
秋の焼き利平栗 |
| 42 あうん坊 | 55-2415
食事処 | 44 石原商店 | 55-2152
石の専門店 |
| 45 松屋 | 55-2415
木の芽でんがく、おでん | 47 三樹屋 | 55-2139
名物いろいろ |
| 48 大樹屋 | 55-2522
みそおでん | 51 海老屋 | 55-2658
もみじせんべい、珈琲 |
| 50 やまと | 56-3843
うどん、そば、天ぷら | 52 えびや | 55-2658
五平餅・しょうゆだんご |
| 53 ほたる茶屋 本店 | 56-3585
だんご、お茶のロールケーキ | 55 みまつ土産物店 | 55-2437
谷汲のお土産(柿ようかんなど) |

- ### 癒す
- 16 谷汲温泉 満願の湯
参拝の後にちょっと一湯
 - 29 村瀬福祉の店
無料でかりられる車椅子・杖

お問い合わせ
揖斐川町観光プラザ
tel 0585-55-2020

編集発行
谷汲山門前街並づくり委員会
平成29年12月再版



巡礼者が旅の道中に使った箸を納めたといわれている箸納め地蔵。7/24には地蔵祭があるよ。



たにやん  

たにやんとぐみっちの なぜなに谷汲山

2 ご本尊は大きくて、七尺五寸もあるんだ！

ぐみっち ところで、その十一面観世音さまって、どんな仏像なの？
たにやん これは難しい質問だね。実は谷汲の人たちもほとんど見たことが無いんだ。ただ、すごく大きな、立派な仏像だという話は伝わっているね。
ぐみっち いままで、ずっと大切に仕舞われてきたんだね。
たにやん そう、この仏像の話をするには、谷汲山華嚴寺のそもそもの由来から話をしなければならぬんだけど、聞きたい？
ぐみっち 教えて、教えて、たにやんさん。
たにやん またまた、たにやんさんと来たね。いいでしょう。それではちょっとタイムワープをして1200年前の東北地方へ行ってみようかね。
ぐみっち え、何でまた東北まで行っちゃうの？
たにやん そもそもこの起りにはね。いまの福島県会津地方の豪族で大口大領という人が、自分の地所に十一面観世音を建立したいと思い立ったことから始まるんだ。
ぐみっち 岐阜県谷汲の話が、東北の会津から始まるんだ？
たにやん そう。で、この大口大領という人が、まず第一にお像を造るための霊木を探しているときね。ある夜、夢の中に一人の童子が現れてある場所を指し示したので、そこへ行ってみると大きな榎があったので、これこそお告げの木だと、さっそくこれを譲り受けて、京都へ運ぶんだ。
ぐみっち ひゃー、今度は東北から京都へ行くの？
たにやん これで驚いちゃいけないよ。まだまだ先があるんだから。さて、大口大領はこの榎を、当時京都で有名な彫り物師に頼んで十一面観世音を造ってもらったんだ。大きな像で七尺五寸というから、約2メートル半くらいの高さになるね。
ぐみっち すごい、見上げるような大きさだね。
たにやん そう。で、ここからがまた面白くなるんだけど、どうしてこのお像が谷汲にきたのかという説が二つあるんだ。聞きたい？
ぐみっち もちろんよ。もったいつけないで、ねえー、早く教えて。

5 西国33ヶ所の巡礼とは

ぐみっち よーくわかりました、たにやんさん。でも、もう一つ教えて、33ヶ所の巡礼で谷汲山は満願寺っていうけど、これはどういう意味。
たにやん よくぞ聞いてくれました。これこそ私の一番話したいところ。まずは33ヶ所の巡礼とはなんぞやという話からいさようかね。
ぐみっち うわー、すっごく気取った言い方ね。でもいいわよ、はい、ちゃんと聞きますよ。
たにやん 西国33ヶ所巡礼の始まりは、大和の長谷寺、徳道上人といわれているんだ。どうして33ヶ所かというのね。観世音菩薩は33の違った姿で現れて、人々を救うと法華經に記されている。だからこの尊い数字と同じだけのお寺を回って身を清め、極楽黄土の道を探すとというのが巡礼の旅なんだ。
ぐみっち 33という数字にはそういう意味があったんだ。

7 幾多の戦火をかいくぐり復興した華嚴寺

ぐみっち それにしても、長い間にこのお寺もいろいろ大変な目にあってるんだね。
たにやん そうだよ。鎌倉、室町、戦国と戦乱の時代が続くだろう。桓武元年(1330年)には、新田一族の堀口貞満が当山の巔にたてこもり、その戦いで兵火を受け、本堂だけが残り残ったといわれているし、さらにその後、正中元年から文明7年にかけても兵火でまったくの荒廃に帰してしまうんだ。でもこの時も薩摩国鹿児島県の慈眼寺の住職道破拾叡上人が、霊夢を感じて再建したといわれている。でも、残念ながらその後も幾度かの戦いなどでさびれ、打ち捨てられたようになってしまっただけで、明治8年に豪泰法印が再建の願主となって、明治12年に再現され、現在のようになったんだよ。

8 青銅の鯉

ぐみっち ふ〜ん。よくわかったわ。それと最後にもう一つ。本堂の向拝の両側の柱にピッカピッカに光った青銅の鯉が取り付けられてあるでしょう。あれはいったい何？
たにやん ぐみっちも、なかなか観察が鋭いじゃないか。うん、あれは「精進落としの鯉」といってね。33ヶ所の巡礼をして満願のお参りをした後であれに触ると精進落としとなるといわれているんだ。ちょっと面白い習慣だろう。さあ、谷汲山の由来はだいたいわかったよね。折角だから華嚴寺をお参りをしようか。
ぐみっち うん、そうしよう。そうしよう。そして後で門前街に行っておいしいものを食べようよ。え〜と、鮎の塩焼きに、しいたけご飯。うなぎに、満願そば、それから木の芽田楽に…。
たにやん おいしい、そんなに食べられるのかい。それと、そうそう、お土産も良いね。こんにゃくや生しいたけ、お茶に、自家製のお漬物なんかがいいね。さあ、まずはお参りに行こう。

1 ご開帳って何!?

ぐみっち たにやんさん、ちょっと教えて欲しいんだけど、平成21年3月から谷汲山華嚴寺である、ご開帳ってどういうもの？
たにやん やれやれ、たにやんさんと来たね。いいですよ。お教えしましょう。
ぐみっち そんなに、もったいつけないで、早く、早く。
たにやん と、いってもね。これが結構大変なんだ。まずご開帳だけれど、これは文字通り「帳(とばり)を開く」という意味でね、いつもはお寺の奥の厨子などに大切にしまわれている仏さま、例えば秘仏なんかをある一定期間に限り信者に参拝して貰い、結縁の機会を作るといって宗教行事のことをいうんだ。
ぐみっち ふ〜ん、宗教行事なんだ。
たにやん そう、だけれどね。これは例えば仏像などでなくても、お寺や先師の記念の年だとか、お堂などの建立や改修の時。また特別な法会の奉修などにご本尊の結縁をいただく、そんな時にご開帳というんだ。
ぐみっち そうすると、今度の谷汲山華嚴寺のご開帳はどっちになるわけ？
たにやん 華嚴寺創建以来のご本尊、大悲十一面観世音が拝めるわけだから、秘仏のご開帳というわけだね。しかも今回は約50年ぶりだから、ものすごく大きなイベントといえるわけだよ。
ぐみっち すごい。わたしも絶対拝みに行こう。

3 どうしても動こうとしない観音様

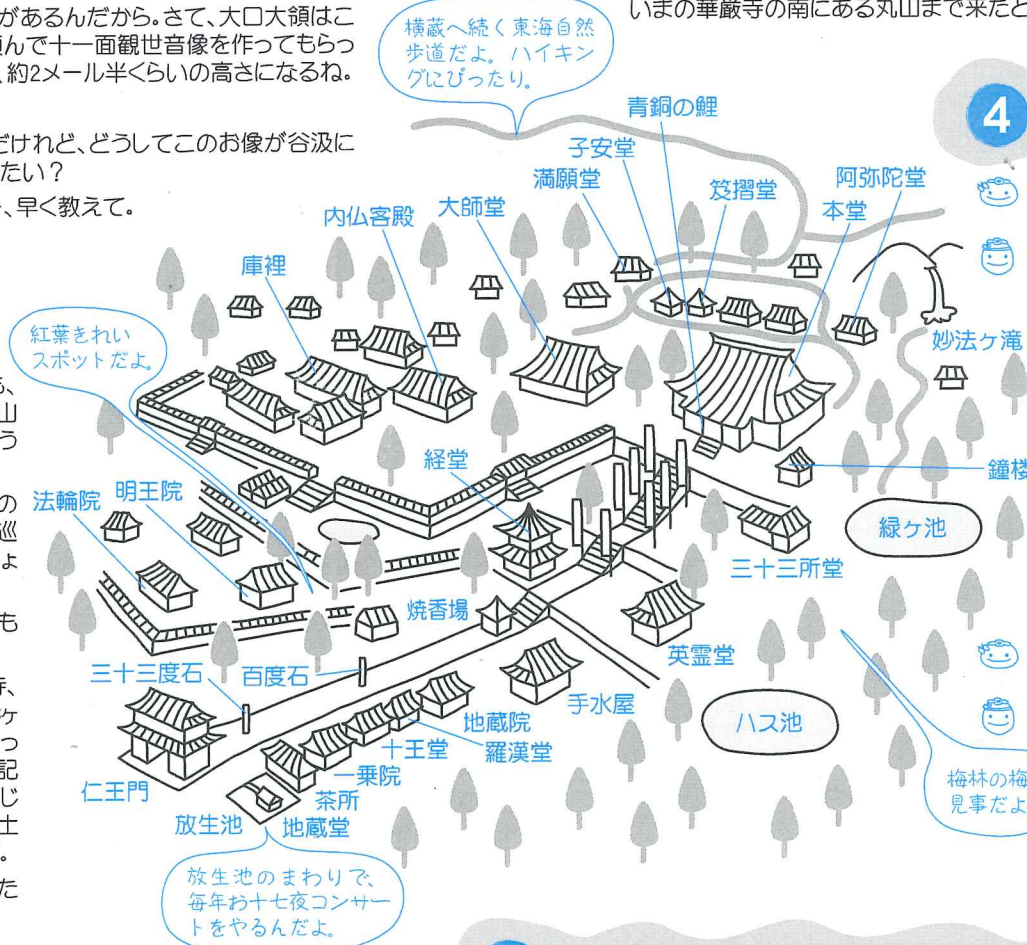
たにやん えへん、それはね、一つは、出来上がった像を会津へ運ぼうと、台車に載せて美濃国の山間まで来ると急に動かなくなって、押しても引いても動く気がない。しかも像が何倍も重くなっているんだ。それでね、そうかこれは、きっとこの像がここに留まりたいということなかと、この地を永住の地と決めたという説だ。
ぐみっち へー、それでもう一つの説というのは、どういふの？
たにやん まま、そうせかさないで、もう一つはね、京都で仏師に頼んで彫り上げて貰ったところ、この観音様がね。突然動きだし仏師の差し出す笠や履き物、杖を自分でつけて、一人で歩き出したというんだ。
ぐみっち うわー、まるで劇画が、映画の世界だね。すごいすごい。
たにやん とにかく、どんどん歩いて美濃の国の赤坂を過ぎたところで、「遠い奥州へは行かない。この先の山中に有縁の地があるので、そこで衆生を済度する」といって、丁度いまの華嚴寺の南にある丸山まで来たところ、一歩も動かなくなったというんだ。

4 谷汲山のいわれ

ぐみっち その仏様と谷汲は、よほど強い縁があったということなんだね。
たにやん そうだろうね。いずれにしろ大領はここが結縁の地と思い、尊像を安置することにしたんだ。ちょうど、この山中で修行をしていた豊然上人という聖(ひじり)が住んでいたの、その上人と力を合わせて山谷を切り開き、堂宇を建てているとね。近くの岩穴から油が涸々と湧き出して来たんだ。だから、それより後は燈明に困ることが無かったというんだね。これが開山の年、いまから1200年前の延暦十七年、桓武天皇の時だったんだよ。
ぐみっち わかった！谷汲山という名前はそこから来たんだね。
たにやん その通り。それとこの尊像に華嚴經が書かれていたのが華嚴寺と呼ばれるようになったんだね。で、この話をお聞きになった醍醐天皇が勅願を出されてね、谷汲山の山号と華嚴寺の扁額を賜った、とこういふわけなんだ。

6 満願のあかし、笈摺堂(おいづるどう)

たにやん そう、それでね、養老二年(718年)のある夜、道徳上人は夢の中で、人々を災いから救う為に33の観音霊場を巡るようにと閻魔大王よりお告げをうけて、巡礼の旅をしたのがいまの西国33ヶ所のはじまりといわれているんだ。でも、その後一度途絶えてしまっただけで、約270年後、花山法皇によって再興されるんだ。花山法皇は33ヶ所の観音霊場を巡幸され最後に当山にいらして、それまで纏っていた笈摺(おいづる)を満願の印に奉納したといわれており、それ以来、谷汲へ来た人は満願のお礼に、笈摺を奉納することが慣例となったんだ。だから、すごいだろう谷汲山の本堂の裏にある笈摺堂にはもう何千、何万という笈摺がいっぱいなんだよ。
ぐみっち うん、もうすごく古いものから、新しいものまで、びっくりするくらいたくさん置いてあるよね。



谷汲イベントカレンダー

1月	初詣
2月3日	節分祭
2月上旬～3月上旬	たにぐみ盆梅展、雛人形展
2月18日	豊年祈願祭(谷汲踊)
4月上旬	さくらまつり(谷汲踊)
6月中旬～7月下旬	谷汲ゆり園開園
8月17日	お十七夜コンサート
11月第2日曜日(予定)	谷汲もみじまつり(谷汲踊)
11月第3日曜日(予定)	横蔵寺もみじまつり
毎月18日	谷汲山十八日まつり

